

# 論壇

## ATM導入と銀行の成長

AI（人工知能）やロボットの進化が進むと、人間の仕事がなくなってしまう。一部の高度な技術者や資本家に富が集中して、一般の国民は貧しくなるかもしれない。技術革新について、そのような悲観論を持っている人が結構多いようだ。たしかに、事務の仕事や工場での作業など、多くの仕事はAIやロボットに置き換わりそうな状況で、自分の仕事は生き残るのだろうかという不安感をもつ人が多くいても不思議ではない。

しかし、考えてみればおかしな話だ。技術革新は本来は私たちの

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

生活を豊かにしてくれるものであるはずだ。技術革新によって多くの国民が不幸になるというのも、少し悲観的すぎるような気がする。

歴史を少しさかのぼってみると、この点について参考になりそうな事例がある。銀行のATMの事例だ。1970年代の初めごろ、

### 技術革新は新たなチャンス

米国の銀行にATMの導入が始まった。そして、90年代に向けて、膨大な数のATMが銀行に設置された。ATMの導入前は銀行のカウンターで人の手を介して行われていたキャッシングや振り込みなどが、ATMという機械でできるようになった。

ところが、ATMが広がったところから、ATMが広がり始めた30年ほどの間に、銀行のカウンターで働く人の数は減ったかというところ、そうではないようだ。むしろ、ATMの普及と並行して、銀行のカウンターで働く人の数も増えている。これはどうしたことなのだろうか。

考えられるのは、キャッシングや振り込みなどの単純な作業をATMがやってくれることで、人はもっと複雑な業務をこなすことができるようになったということだ。たとえば、来店した客の資産運用や税金の相談にのるというようなことは、人にしかできないことだろう。ATMの導入によってこれまで人がやっていた作業が機械に代替されても、それによって

時間的な余裕ができた人がもっと高度な仕事をこなすことで、銀行業務全体が拡大していったのだ。ATMという機械の導入は、米国の銀行の成長と同時並行的に進んでいったのだ。

#### 変化できる者が生き残る

AIやロボットが自分たちの代わりに仕事をこなすので、自分たちの仕事はなくなるというのは、いかにも消極的な考え方のようには思える。AIやロボットが単純な作業をこなしてくれるので、自分たちはもっと高度な作業に時間を回せる。そう考えてみれば、もっと明るい技術革新の未来が見えてくるはずだ。技術革新は、私たちの可能性を広げてくれる貴重な機会でもあるのだ。

技術革新も含めて、変化の激しい時代になっている。世の中が変化しているのに、自分だけが変わらないようでは、変化の恩恵を受けられない。世の中の変化が激しければ、それに応じて私たちも変わらなくては行けない。

かの有名なダーウィンは次のように言っている。「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることができるのは、変化できる者である」と。

技術革新を私たちの豊かさに生かしていくためには、私たち自身が変わっていくことが必要だ。AIやロボットは私たちがいま行っている仕事を奪うというように考えるのではなく、私たちに新しい仕事をするチャンスを与えてくれていると考えるべきなのだ。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。